

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究3	公益目的事業 17
主査名	根本敏則 敬愛大学教授	
研究テーマ	技術革新をふまえた道路課金の進展に関する研究※	
研究の目的： 目的は、①欧米を中心とした諸外国の道路課金、道路課金方法の最新動向のレビュー、②大型車マネジメントを支える技術開発の動向のレビュー、③電気自動車用の充電施設の整備状況のレビューを通じて、我が国の道路施策への示唆を得ること。		
研究の経過（4月～3月）： 今年度も5回の研究会を開催した。各研究会では研究会委員による研究報告、および討議を行った。第1回 5月26日：発表テーマは、「NEXCO 東の ETC 専用化運用状況」、「ペンシルベニア州の有料道路料金徴収漏れへの対応」、「欧州スマートタコグラフ規制と路上検査の現状について」など。第2回 8月4日：発表テーマは「世界の電気自動車充電施設の整備状況」、「フランスの高速道路における料金所フリーフロー化」、「脱炭素を目指す欧州の対距離課金」など。第3回 10月13日：発表テーマは、「世界の道路の電化」、「ニューヨーク混雑課金」、「欧州 WIM 取り締まり」、「アメリカの Managed lanes」など。第4回 12月22日：「米国 RUC の課題」、「ノルウェーの EV 普及政策」、「EVトラックの紹介」、「脱炭素を目指す欧州の対距離課金」など。第5回 3月16日：「米国 RUC 実装のための戦略計画」、「ロードアイランド州トラック通行料訴訟」、「ニューヨーク混雑課金実施延期」など。		
研究の成果（自己評価含む）： 研究会での議論を踏まえ、報告書を作成した。第1章「道路貨物輸送分野におけるカーボンニュートラル施策の評価」では、欧州における CO ₂ 排出性能が加味された大型車対距離課金の意義を確認し、我が国における脱炭素に向けた道路施策を検討した。第2章「欧州道路課金の動向」では、ロンドンで検討が進む包括的な道路課金、フランス高速道路で運用が始まったフリーフロー課金を紹介している。第3章米国道路課金の動向」では、ペンシルベニア州の有料道路料金未収問題、RUC 実装のための計画などについて整理した。第4章「欧州 WIM を用いた過積載車取り締まり」では、過積載車の取り締まりの実態、課題を整理した。第5章「ETC 専用化施策」では、日本での ETC 専用化施策を紹介するとともに、各国での AET 導入に伴う取り締まり状況を整理した。第6章「世界の道路の電化（電気自動車用充電設備）」では、大型車の電動化に向けた充電設備の整備について、欧米の状況の整理を通じて課題を明らかにした。		
今後の課題： わが国でも道路 DX として、高速道路における戦略的料金、電動車・自動運転車に対する道路インフラからの支援が求められており、欧米における関連政策のレビューは有用であり、継続していきたい。		